

教科目名 工学実験 (Experiments in Mechanical Engineering )

学科名・学年 : 機械工学科 4年 (教育プログラム 第1学年 科目)

単位数など : 必修 4単位 (前期2コマ, 後期2コマ, 学習保証時間 78時間)

担当教員 : 伊東 徳 松本佳久 菊川裕規 軽部 周 徳安達士

授業の概要			
本実験は、機械工学に関してメカトロニクス・粘度・潤滑・流体・光弾性の各実験、周辺分野に関して電気実験、就職・進学に関する演習の各分野について行う。これらによって、講義で学習する理論を実体験すると共に就職及び進学に必要な力を養成する。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (D1) (D2), JABEE 目標 (d2b) (d2c) (d2d) (g) (h)	
(1) 機械工学に密接に係る基礎的な実験をプロジェクトベースで修得し、理解する。(レポート)			
(2) 問題を把握し、計画、実施、解決するまでの一連の流れで実験し、その意義について理解を深める。(レポート)			
(3) 技術報告書の書き方を修得する。(レポート)			
(4) 就職・進学に必要な力、社会で要求される問題解決能力を養成する。(レポートと試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. オリエンテーション	各テーマについての概要、年間計画、実習に関する一般的注意、報告書の作成方法の説明を受け、概要を理解する。	【理解の度合い】
1	2. 安全教育	実験器具・装置類、工作機械等の取り扱いに関する安全対策を理解する。	【理解の度合い】
2-4	3. 電気実験	1)誘導電動機の基礎実験, 2)誘導電動機の回転数変化実験, 3)インバータの外部運転制御について理解できる。	【理解の度合い】
5-7	4. 流体実験	1)ポンプの圧力・流量測定実験, 2)ポンプの相似法則実験, 3)管路系の圧力損失実験について理解できる。	【理解の度合い】
8-10	5. 技術文書と志望理由書の書き方	技術文書の書き方の演習を行い, 1)技術文書と作文はどこが違う, 2)技術文書の構成, 3)志望理由書の書き方が理解できる。	【理解の度合い】
11	6. 校外実習報告	校外実習先でのプロジェクトの内容および結果を発表し, 3年生に説明できる。	【理解の度合い】
12-14	7. S P I 試験	就職試験に備えて, 能力検査用問題に慣れ, 其の趣旨を理解する。	【理解の度合い】
15-17	8. 油圧実験	油圧シミュレータを用いて油圧の基本理論を学び, 種々の回路で用いられる油圧機器の基本動作を理解する。	【理解の度合い】
18-20	9. 粘度・潤滑実験	粘度実験はレッドウッド粘度計による粘度実験, 潤滑実験は四球試験機による油性実験を行い, 油の性質を理解できる。	【理解の度合い】
21-26	10. メカトロク応用実験	1)二足歩行ロボットの構造について理解できる。2)二足歩行ロボットのモーションを作成し, 自由に動かすことができる。	【理解の度合い】
履修上の注意	クラスを10人程度で構成するグループに分け, プロジェクトで実施する。上記はAグループ(出席番号1~10番)の学生の例である。		【総合達成度】
教科書	各実験は本学科で作成した実験の手引き(ガイドライン)に従って行う。		
参考図書	実践教育研究会編, 「機械工学基礎実験」, 工業調査会。		
関連科目	工学実験, 工学実験, 卒業研究		
総合評価	達成目標の(1)~(4)について, テーマ別にレポート・取組み状況で評価する。取組み状況は, 実験態度等により各担当者が判断する。各テーマ点としては, レポートを70%, 取組み状況を30%として採点する。これら採点結果を100点満点で成績評価集計担当者がとりまとめ, 各学生に対し, 「(テーマ点×そのテーマの実施回数) / 評価対象実験回数」を求めて, 総合評価とする。総合評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点